

博士・修士渡航助成 事後報告書

広域システム科学系 于 賢洋

私は「博士・修士渡航助成」を受け、2022年12月にアメリカのシカゴにて開催された国際会議「American Geophysical Union Fall Meeting (以下、AGU)」に参加した。現地の12/12に到着してから5日間、非常に内容の濃い時間を過ごすことができた。

今年のAGUはMcCormick Place Convention Centerという非常に大きな会場で開催された(Figure 1)。広大な会場にもかかわらず、毎日至る所で研究発表が行われており、その様子は非常に新鮮であった。特に、12/13~15には口頭発表にて自身が研究対象としている月に関して新しい報告があり、その内容を現地で聞くことができたのは非常に有意義であった(月が形成されるとき熱と組成の平衡状態から現在の揮発性元素に枯渇した月の状態が出来上がった、など)。

また、12/13の午後14時45分から18時15分まで自身の研究内容をポスターにて発表する機会があった。10人以上の拝聴者がきたため、3時間半ほとんど休むことなく発表を行なった。そこでは今後の研究をする上で有力なアドバイスや激励をもらうことができた(相関曲線を別の論文から引用して用いてはどうか、など)。

さらに、12/12から12/16までポスター発表に赴き、さまざまな研究をしている人と交流した。そこでは真新しい研究の成果を知ることができた上、今後どのように研究していけば良いのかを考え直すきっかけになった(火星の二分性を説明するため、初期の放射性元素分布を球面調和関数1で補正してあげると良い、など)。

総じて、今回の国際会議では現地でしか得られない交流、知見を得ることができたと考えている(Figure 2)。渡航助成をいただいたことに感謝し、ここに報告とさせていただきます。

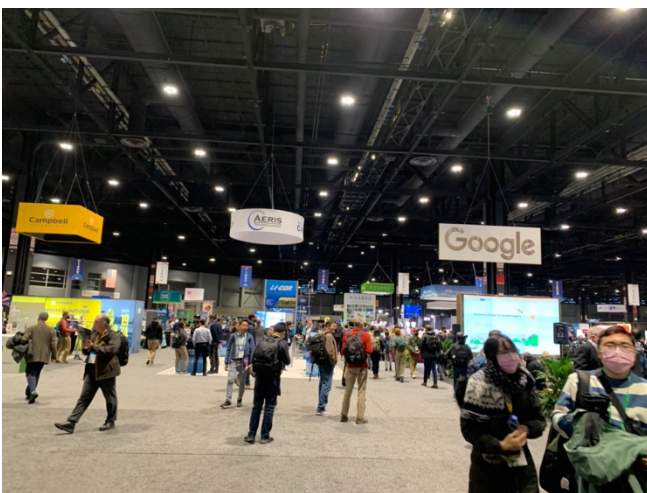


Figure 1. AGU 会場の内部



Figure 2. AGU 会場内に設置されたモニュメントとの記念撮影